

道博協ニュース

第42号

発行所 北海道博物館協会
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第41回全国博物館大会に向けて

第四十一回全国博物館大会を本年十月に札幌市で開催することになった。昨年四月に北海道開拓記念館の新しい常設展示のオープン式に出席して下さった日本博物館協会の毛利専務理事から、来年度の全国博物館大会を札幌で開催するようにとの要請があった。

この大会は日本博物館協会本部が主催し、地元の支部が共催することになっているが、

北海道では単に北海道支部ではなく、北海道博物館協会が活発に活動しているため、北海道の協会が共催者となることに決めている。

今まで札幌で大会が開催されたのは、昭和四十七年度の第二十回だけで、北海道開拓記念館が開館した翌年のことであった。そのほか北海道で大会が開かれたのは、第五回釧路、第十四回函館、第三十回五回釧路の三回で、北海道で開催されるのは、今回で五回目になる。

私は二十年前に開かれた大会のときは、博物館とは無縁であったが、大会の前年の開館式に参列して、やっと札幌にもこのような立派な博物館ができたことと感激したことを今でも忘れられないが、今回の本部の意向も、新らしい開拓記念館展示のお披露目を兼ねてのお考えがあったと拝察している。

なお大会のあとの見学も、多方面に行けるよう計画してほしいとの要望があった。北海道における博物館の著しい発展については、全国の博物館で注目しているため、本部の意向に従ってかなり広い見学計画を予定しているため、各地の北海道博物館協会のメンバーの方々にも協力を切に願います次第である。

今年度は「国際先住民年」に当たっているため、今年の北海道での大会は、その意味でも時直を得たものと考えられるが、北海道の博物館の皆さんも、その意義を充分理解し、対応できるように勉強していただきたいと願っている。

本年の大会の会期は十月二十一日(水)、二十二日(木)の両日、札幌市教育文化会館で開催するが、会の参加者は、(一)日本博物館協会加盟の会員、(二)北海道博物館協会加盟の会員、(三)その他、日本博物館協会が認めた者、となっている。

十月も下旬となれば、北海道も少し寒い日があるかも知れないが、札幌は今年も会合が多く、やっとの思いで二日を確保することができたので、その点も理解していただきたいと思っている。

わが国の博物館の充実は特に近年目を見晴るものがあるが、従来社会教育の一環として考えられていた博物館は、生涯学習の中心として活動するよう位置づけられて来た。一方では最近学校教育についても大きな変動が起こりつつある。博物館と学校教育との関係の発展は、今後の博物館の発展のためにも、決してゆるがせに出来ない問題である。私は最近とみに感じている。

これからの博物館のあり方については、今年の博物館大会でも大いに議論されると思うが、北海道の博物館のあり方についても、この大会開催を機縁として、積極的に考えてほしいと、切に願っているところである。

(北海道博物館協会会長
北海道開拓記念館館長
渡邊左武郎)



第40回全国博物館大会

北海道博物館略史(11)

(3) 北海道拓殖館

大正七年(一九一八)の開道五十年記念北海道博覧会の際に第一会場の中島公園内に建てられ、拓殖教育衛生館として使用された建物は、前回ふれたとおり、翌年から拓殖館と称し、北海道商品陳列所の付属施設として利用された。

館設置の目的は、「主トシテ本道ノ拓殖事業ノ変遷発達ニ関スル状況ヲ公衆ニ展示スル」(昭和六年「長官事務引継書」)ことにあり、大正七年の博覧会で利用した資料を中心に、各種の模型、標本、其の他の参考資料を収集、陳列した。

博覧会における拓殖館の主な陳列品は次のとおりで、道開拓五十年の発達過程を示すものである。

○開拓次官黒田清隆の民情視察の状況を示す模型

○北海道拓殖の進歩を示す地彫大模型(一〇万分の一)

○明治初期の函館、小樽港の模型、写真、統計

○殖民地選定、殖民地地区画測設、移住(入植)、開墾指導、開拓地、農村の模型および測量器具

○開拓期の農産物と土壤標本

○十勝アイヌのチャシの模型

○開拓地および農村の状況を示す写真

○道内各地の発達状況を紹介する写真、図、模型

○気象観測器具

○各種統計表

○歴代長官の写真

その後、大正十五年八月に札幌市で国産振興博覧会(北海道タイムス社主催)が開催された際、本館は第一道産館として利用され、三、六七五点が出品された。

昭和三年に北海道商品陳列所が廃止されたため、昭和四年三月「北海道拓殖館規定」(庁令第二六号)が定められ、四月から北海道拓殖館として開館した。

この規定によると、館の設置目的は「本道拓殖並産業ニ関スル変遷発達ノ状況ヲ公衆ニ知ラシムルヲ参考トナルヘキ各種ノ資料ヲ陳列展示スル」ことにあり、祭日、祝日および毎年十一月十六日より翌年四月十四日まで休館するほか、毎日開館した。開館時間は、四月十五日～四月三十日が午前九時より午後五時まで、九月十六日～十一月十五日が午前九時より午後四時までであった。

本館に関する資料は乏しく、その詳細は明らかでないが、昭和六年の「長官事務引継書」によると、同年の経費予算は三、〇三一円であり、当時、建物の腐朽、破損が甚しかったため、同年夏(七月十二日～八月二十日)、国産振興北海道拓殖博覧会(道庁・札幌市・商工会議所主催)が中島公園で開催され、本館を第一道産館として利用した際に、博覧会の費用で、内部の大修理を実施したが、さらに屋根、外壁等の修理と陳列品の充実



国産振興博覧会の第一道産館となった拓殖館

が必要とされていた。

この館は、太平洋戦争中の昭和十七、八年頃に北部軍憲兵隊に接収され、内部の陳列品等は総て商社の大倉庫に分散、保管されて、その機能を停止するに至った。

なお、敗戦後、この建物はアメリカ進駐軍の工兵部隊に接収され、昭和二十三年に返還されてからは、経済調査庁や道立地下資源調査所の庁舎(昭和二十六年八月～三十六年八月)として利用された。

また、分散保管していた陳列品はほとんど消失したが、大型の写真パネル(一部着色)、

測量器具、屯田兵資料などの一部が北海道開拓記念館に保存されている。

(主な参考文献)

『開道五十年記念北海道博覧会事務報告』(大正九年、北海道庁)、『国産振興博覧会誌』(昭和二年、北海道タイムス社)、『長官事務引継書』(昭和六年)、『北海道庁公報第百十九号』(昭和四年四月)、山紫水明庵主人「道立地下資源調査所の新庁舎を見る」(『地下資源』一四号、昭和三十六年十月、北海道鉱業振興協会)

(北海道開拓記念館

学芸部長 関 秀志)

館 園 紹 介

松前藩屋敷

北ノ辺土、古キ城都アリ。
ソノ名ヲ松前ト謂フ。(信
州、諏訪に伝わる十四世紀の
『諏訪大明神絵詞』より)
この絵詞に「万堂宇満伊犬」
という不思議な響きをもつ地
名が現れる。

これこそアイヌ語のマツオ
マナイ、つまり、歴史上はじ
めて姿をみせた「松前」にほ
かならない。

松前藩が成立するのは五世
慶広のとき。豊臣秀吉からの
朱印状により、また、後の徳
川家康からの黒印状により、



「漁家」で酒をくむ漁師たち

実質的に蝦夷島の支配権を与
えられ松前藩が誕生した。

十八世紀には、最盛期を迎
えた松前には諸国の船が出入
りし、その賑わいは「松前の
春は江戸にもない」といわれ
たほどであった。

北海道唯一の城下町として
栄えた松前は、明治維新の戦
乱まで時代情緒あふれた古建
築が、静かに通り過ぎていく
時間を見守っていた。

松前町では、みやびにいろ
どられ、賑わいをみせた城下
町を再現すべく、昭和六十三
年から三年間の期間を要し、
「松前藩屋敷」を建設した。

平成三年四月オープンした
この松前藩屋敷は、江戸末期
の生活様式や風俗が手にとる
ように見え、十四棟のあちら
こちらには町民から寄贈され
た三千二百点の展示品がすべ
て本物であり、訪れた人々を
江戸時代へのタイムスリップ
のひとつを楽しませてくれる。

建物の中に一歩足を踏み入
れると、街並の雑踏をよそに
木の香りが落ち着きを与えて
くれ、年輪が何かを語りかけ

てくる感じである。

松前は、良質のスキが生産
されることから、松前藩屋敷
の建築にあたっては構造材、
造作材に地元のスギが大量に
使われており、気候が温暖な
松前といえども、厳冬の中で
たくましく育った松前スギは
独特の風情をかもし出し、建
物の壁や天井に違和感なく特
異な紋様を見ることができ
る。

約三億四千万円を投じ、こ
の観光施設を建築するきつか
けは、若い町役場職員のアイ
デアが発端となり、北海道文
化発祥の地松前ならではのも
のへと肉づけされ、史実に基
づき、忠実に再現されたもの
である。

城とさくらの松前にさらに
新しい観光の目玉としてお目
見えした松前藩屋敷は、オー
プンの平成三年は年間十四万
人の入館者が訪れた。

これは、現在の人口の約十
倍にあたる。

表門をくぐると沖の口奉行
所があり、白洲で入国者を厳
しく吟味している様子が奉行
役の人形、センサーによるテ

ープで再現される。

商家には、現在のスーパ
マーケットの如く、呉服、履
物、調味料、鍋釜、薬品まで
ありとあらゆる品をとり揃え
ている。

現在の旅館にあたる旅籠で
は自由にながらも、記
念に宿帳に記名して行く人も
多い。

他に、髪結、廻船問屋、自
身番、棟割長屋、武家屋敷な
どがあり、テナント業者にお
願いしてある食べもの屋と茶
店、それに木工品を売場販売
のウッドセンター、松前銘菓
など土産物販売店がある。

季節に応じ、郷土芸能や日
本舞踊、南京玉すだれなど披
露、また「そり造り」「手焼
き煎餅」「とろろこんぶ作り」
などの手仕事実演も見せる。

(松前藩屋敷案内)

十日間前後午後六時までの
延長あり。

★入館料

大人 三〇〇円
小人(小・中学生) 二〇〇
円、二十五人以上は各五十
円つつの団体割引。

★交通

JR函館駅から木古内駅下
車、函館バスに乗り、松前
公園への最も近い松城バス
停で降り、公園を通過して徒
歩十五分。タクシーでは約
五分。駐車料金は、さくら
まつり期間(五月一日～二
〇日)のみ三〇〇円。ほか
は無料。

★お問い合わせ先
松前藩屋敷
〒〇四九一五
松前郡松前町字西館68
TEL 〇一三九四一三一―二四三
九

冬季休館中は、
松前町役場商工観光課
TEL 〇一三九四一三一―二二七
五

★敷地面積
六、二〇〇㎡

★開館時間
四月十日から十一月末まで

★開館時間
午前九時～午後五時

五月、八月の繁忙期には各
(松前藩屋敷
館長 竹田勝治)

館園紹介

由仁町ゆめつく館

由仁町は、空知の最南端に位置し、道央圏内の札幌市、江別市、岩見沢市、千歳市、

苫小牧市といった都市部にいずれも四十キロメートル以内の距離にあり、多くの輸送機関及び、交通網が整備され農業を基幹産業とし、発展を

してきた町ですが、最近では休耕田を活用した野菜、花木、等の栽培にも力を入れ農業も大きな変化を求めている現状であります。

平成五年五月八日町民待望の「ゆめつく館」がオープンいたしました。



ゆめつく館 (前景)

当館建設につきましては、

生涯学習時代を迎えた今日、町民の学習活動や、文化の向上を図るため、学習機能を備えた図書館と資料館が一体となった複合施設であります。

由仁町開町百年記念事業の一環として平成三年九月十日着工いたしました。折しも平成二年に由仁町内砂利採取現場からマンモスゾウの白歯化石と、オオツノシカの角の化石が発見され、マンモスゾウの白歯化石は、地下七メートルの砂れき層から発見され、このことから生きていた年代を特定することができ、またオオツノシカの角の化石も同じ地層に埋まっていたものと確認され、その後の鑑定や研究により、生息年代はおおよそ五万年から六万年前の氷河時代であることが判明したものです。

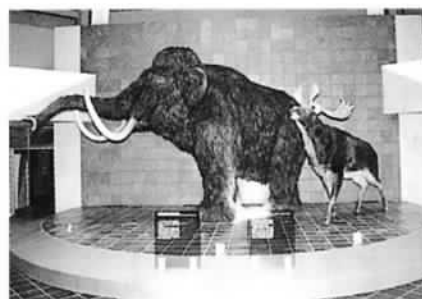
ブリミゲニウスゾウは、日本で発見されたものの中で、最も古く、また年代が特定できたのは、この化石が初めてです。

さらにシノメガセロスマベ

イ(オオツノシカ)は北海道では初めての発見となりました。このことからして学会を始めとし、関係機関の研究に一石を投じました。このため古代の歴史を手掛かりにして研究や、学習の可能性を広げ興味深く学習を深めて行くことの楽しさや、喜びを求めるようマンモスゾウとオオツノシカの実物大の模型に植毛復元し、これをゆめつく館のメインホールに展示したものです。

当館は、由仁町初めての本格的な学習基地として図書館、郷土資料館が計画されており、図書館部分では、全体的な閲覧室、児童閲覧室、近なものにしてあります。

幼児コーナーに分け、図書整理についてはコンピューターを導入し、情報提供に心掛けております。



マンモスゾウとオオツノシカ



ゆめつく館 (俯瞰)

郷土資料室では、広さ八四・八七平方メートルで郷土資料研究会の方々の協力を得ながら由仁町の開拓当時から生活歴史資料を中心に構成をしております。

（由仁町ゆめつく館案内）

★開館時間

午前十時から午後六時まで
（土・日曜日は、午前十時から午後四時まで）

★休館日

月曜日（月の末日が月曜の場合、その翌日）
祝祭日

★交通案内

年末年始（一月二日から同月五日まで及び十二月三十日から同月三十一日まで）

★お問い合わせ先

JR 由仁駅下車（徒歩七分）
中央バスで由仁駅前下車（〇）
夕鉄バスで由仁駅前下車（〇）
〒〇六九一一二
夕張郡由仁町中央二〇二番

★電話

〇一二三八一三三三八〇三
（由仁町ゆめつく館）

館長 工藤憲一

館 園 紹 介

真狩村羊蹄ふるさと館

秀峰羊蹄山の南麓に広がる真狩村羊蹄自然公園の中に郷土資料館「真狩村羊蹄ふるさと館」があります。

当施設は平成元年五月一日にオープンしました。

郷土資料館として村の歴史、民俗、産業、文化面等の資料を展示し、郷土の生活、文化の向上に資するため建設しました。

特に、羊蹄山の大自然とともに発展してきた様子や学術的資料をわかりやすく展示しています。

また、真狩村の生んだ作曲家の八洲秀章氏や歌手の細川たかし氏などの資料もコーナーを設け紹介しています。

さらに「真狩村羊蹄ふるさと館」では常設展示のほかに次のような主催事業も行っています。

① 真狩村羊蹄ふるさと館フオーラム

真狩村にゆかりの文化人を中心として平成三年度より行

っています。平成三年度は作曲家の八洲秀章氏、平成四年度は版画家の一原有徳氏にスボットをあてたフオーラムを開催しました。

村内の人に限らず村外からも多くの参加者があり、なかなか好評です。

今後もより工夫を凝らしたものを企画し開催していきたいと考えています。

② 澱粉製造工程公開事業

明治後期から昭和初期にかけて水車を動力として馬鈴薯を使って製造していた澱粉を当時の方法で製造機のみニチユア(縮尺1/8)を使用し作る事業です。



真狩村羊蹄ふるさと館全景

主に子供たちの参加が多く自分たちのおじいさんやおばあさんの時代の様子を身をもって体験する良い機会となっています。

また、製造した澱粉を試食するコーナーもあり参加者にも喜ばれています。

この事業は毎年十月の第二土曜日に行っています。

さて、ここで「真狩村羊蹄ふるさと館」のある真狩村羊蹄自然公園について簡単に紹介します。

約二〇〇haという広大な敷地を持ち、テニスコート、フイールドアスレチック、キャンプ場などのスポーツ施設や宿泊施設のほか、「森林学習展示館」などの学習施設があります。公園内には四〇〇種類にも及ぶ草花や樹木が茂り、昆虫や野鳥も豊富です。

また、札幌から車で二時間弱の距離にあり、ちょっとしたピクニックやハイキングにも最適です。

このような恵まれた環境の中に「真狩村羊蹄ふるさと館」にぜひ一度おいでいた

だき、羊蹄の大自然を満喫するとともに、真狩村の開拓の歴史や文化の香りに触れてみてはいかがでしょうか。



真狩村羊蹄ふるさと館内部

②月曜日が国民の祝日にあたる時は、その翌日

★入館料

個人 大人(高校・一般) 一五〇円

小人(小・中学生) 一〇〇円

団体(二〇人以上) 大人 一〇〇円

小人 五〇円

★交通

JRニセコ駅から車で二〇分

道南バス羊蹄自然公園停留所より徒歩一〇分

★問い合わせ先

真狩村羊蹄ふるさと館

☎〇一三六―四五―二三一

★所在地

虻田郡真狩村字社二九六番地一(羊蹄自然公園内)

★開館期間

毎年五月一日〜十一月三十日

★開館時間

午前九時三十分〜午後四時三十分

★休館日

①毎週月曜日(ただし夏休み期間中は月曜日開館)

(真狩村教育委員会 社会教育主事 伊藤 均)

釧路沖地震 被害調査(報告)

一月十五日の釧路沖地震の被害状況について取りまとめましたので、その一部を報告します。なお正式報告は、七月七日の全道博物館大会(滝川大会)で配布を予定しております。

一、回収状況

配布館園一四〇館、回答九一館。

二、被害館園

回答九一館の内、被害あり二二館、被害なし七〇館。

三、主な被害状況

1 恵庭市郷土資料館

①土器六六・棚より落下により全壊土器一点。②土製支脚一点・土器落下により一部破損。

※被害金額：内部で復元。

2 江別市郷土資料館

①展示土器四〇〇点の中の復原土器一五点が破損。その内の六点は一部破損程度。

※被害金額：内部で復元。

3 北海道立函館美術館

- ①展示室天井パネル(岩綿吸音板)一部落下、破損等。
※被害金額：約一〇万円。
- 4 斜里町立知床博物館
①展示資料(復元土器)数点の破損。
※被害金額：内部で復元。
- 5 仙台藩白老陣屋資料館
①展示物の石灯笼二基が倒れ破損。②展示ガラス(八ミリ)が二枚割れる。③解説パネル三枚を損傷。
※被害金額：五七万六二〇円。
- 6 苫小牧市博物館
①併設の埋蔵文化財調査センターに展示されていた土器四点が破損。
※被害金額：内部で復元。
- 7 穂別町立博物館
①映像関係・マルチメディア画像用機器の転倒により画像が不鮮明に写る。②展示室・天井に亀裂が入った。
※被害金額未定。
- 8 平取町二風谷アイヌ文化博物館
①殆どのケース内の展示物の位置が、全体的にずれた程度の軽微なもの。
※被害金額：内部で調整。〇〇円。
- 9 浦幌町郷土博物館
①博物館天井落下、②展示ケース損壊、③土器約八〇個、その他の展示品破損。
※被害金額：一四九万五〇〇円。
- 10 ひがし大雪博物館
①窓ガラス破損九枚。②展示ケース一部損壊。③壁面亀裂。
※被害金額：二四万円。
- 11 鹿追町コミュニティセンタ―郷土資料室
①展示ケース(六段組)全壊一台。
※被害金額：一五万円。
- 12 忠類ナウマン象記念館
①ナウマン象骨格模型の破損。②展示パネル等の破損一カ所。③施設の一部損傷。
※被害金額：約一〇〇〇万円。
- 13 北海道立帯広美術館
①館内外壁面、展示室天井等建物壁亀裂発生。②書架、展示ケース、展示パネルなど設備破損。③美術作品四点、額縁二十六点等破損。
※被害金額：一三三万八四〇〇円。
- 14 幕別町ふるさと館
①窓ガラス破損二枚。②展示ケース破損一台。
※被害金額：約二五万円。
- 15 厚岸町郷土館
①展示ケースガラス・展示用ガラス破損。②考古・民俗資料の展示物破損。③手すりの破損。
※被害金額：一三万円。
- 16 太田屯田開拓記念館
①展示用ガラス破損。②展示物破損。
※被害金額：四万六〇〇〇円。
- 17 厚岸町海事記念館
①館前敷石の剝離。②展示物破損。③事務機、書庫、脇机破損。
※被害金額：約七五万円。
- 18 釧路市立博物館
①展示資料の破損・マンモス全身骨格標本のずれ、完形土器八十九個破損、展示ケースなどの破損。②取蔵資料の破損・大型ガラス標本ビン、試験分析器具などの破損。③建物等の破損・ガス配管、煙感知器、温湿度計、照明器具の破損。
※被害金額：約四百八十二万円。
- 19 標茶町郷土館
①展示ケースの倒壊。②液漬(浸)標本の破損。③発掘資料の散乱。
※被害金額：未定。
- 20 中標津町郷土館
①展示資料の土器、徳利等十二点が小破及び全壊。②窓ガラス一枚、③建物の基礎(コンクリート)が割れた。
※被害金額：四万円。
- 21 北海道開拓記念館
①常設展示中の復元土器一点が転がり破損。
※被害金額：内部で復元。

事務局日誌

2・25(木) 学芸職員部会役員会(小樽市博物館)

3・5(金) 事務局打合せ

3・11(木) 32回大会打合せ(滝川市)

3・31(水) 『道博協ニュー

ス』第41号発送、各種調査票(4年度館園現況調査票、学校5日制取組み調査票、5年度表彰候補者申請書、5年度

普及・展示計画案調査等)